



Technology Transfer

# テクノファNEWS

## OHSAS 18001とは

英国・労働安全衛生コンサルタント、クリス・ハンター氏講演

逐次通訳：(株)テクノファ 代表取締役 平林 良人

さる4月15日、英国規格協会BSIは「OHSAS 18001」を発行した。

今まで労働安全衛生の第三者審査を行うときは、BS 8800に基づく各機関の自社規格を用いて行われてきたが、共通する基準規格として発行されたことは意義が大きい。

OHSAS 18001は国家規格(BS)ではないが、9000や14000とも整合性があり、審査機関や統合した仕組作りを目指す組織に歓迎されるものと思われる。

これを受けて、(株)テクノファでは5月22日、英国労働安全衛生コンサルタント、クリス・ハンター氏を招き、OHSAS 18001とは何かについての講演会を開催した。

労働安全衛生審査登録のISO規格化に関心が集まるなか、満席の参加者を前に同氏は3時間にわたって講演された。(株)テクノファ平林代表の逐次通訳が進められ、条項解釈のほかISO規格化の見通しなどに活発な質問が集中した。

### 【講師紹介】

もと英国開発公社において、日系企業誘致の仕事を担当、来日も40回を超える知日家。英国に進出した日本企業20社以上の定着に貢献された。

現在、労働安全衛生コンサルタントとして活躍中。クリスハンター事務所長。



写真はクリスハンター氏と平林代表 →

### ■ 内 容 目 次

OHSAS 18001 .....	1-6
研修/養成コースのご案内 .....	7-8



当社ではBS8800をベースとした5日間の研修コースを開催、すでに第4回を終了した。OHSAS18001が発行されたので、次回からOHSASに切り替える予定である。

今日は英国労働安全衛生事情に詳しいクリス・ハンター氏をお招きし、OHSAS18001に関する特別講演を企画した。講演資料としてBSIに発注したが、現在印刷中とのこと、著作権の関係でコピー配布も出来ない状況をご理解頂きたい。英語版はないがその代わりに、私の「仮訳」を用意したので参照されたい。近々、日本規格協会より訳本が出る予定になっており、訳意にずれが出ることも含んでおいて頂きたい。

付表として、OHSAS18001とBS8800、労働省から出された指針(告示)を対比したので後ほどまた触れたいと思う。逐次通訳を進めたい。

## 『OHSAS18001とは』

講師:クリスハンター氏[英国労働安全衛生コンサルタント]

今日ここでお話ができることを嬉しく思う。平林氏の紹介の通り、この規格は4月15日に出たばかりのものである。

まず、OHSAS/1999年版への理解のため背景を説明したいと思う。

英国の労働安全衛生については、1802年に最初の工場法が制定された。爆発の危険仕事に携わるケースであり、特に未成年者等に対する保護が主体であった。1833年(日本は江戸時代)には、検査官が任命されている。その後1961年に至る間、全国的に産業ごとバラバラと沢山の法律が制定された。

1961年、これらを一本化した法律が制定された。1963年には事務所等いわゆる製造業以外も包含される。長い間100年変わらない法律や、経営者、雇用の体制への理解不足が出て来る。

1970年、政府はローベンス卿から統合について要請を受け、強い位置付けをもつロイヤルコミッションが設定する。日本の各省庁にみられるタテ割りの弊害を超える強い位置付けである。

2年間の活動の結果がローベンスレポートとして発行された。1972年、UKはECに加盟しており、EC(現在EU)は加盟各国に指令(ダイレクティブ)が出来る仕組みとな

っていたので、英国はECの中で、法制的な重要な役割をになうこととなった。

1974年には、すべての安全衛生法を統合、Health and Safety at Work Act(HASWA)が制定され、実効的に一本化されたものとなる。政府が安全衛生法に関するものすべてを大枠として抑え、ひとつの傘の下に集結する法体系である(日本とは異なる)。

1974年の法律だけでは実効は上がらないものであり、細かい規制や指示がある。どのように実行するかは補助的な「指針」を持っている。英国の法体系はHASWAを頂点として法的義務、規制、行動指針を兼ね備え、HSC、HSE(局)がそれぞれにガイダンスを出している。この法的義務のなかに、経営者は労働安全のマネジメントシステムを入れることが含まれていた。

1972年EC加盟後、ECはローマ条約118条に労働安全に関するダイレクティブを出している。ECの役割として加盟各国、議会に対して労働安全衛生のレベルを上げ、社会的なインフラのひとつとしようというあらわれと考えられる。

指令には法的な要求がついており、英国だと国務長官宛に指示が出され、法との結びつきの特徴である。年限を区切った法制化



を要求するのである。

英国は1974年の工場法という大きな傘があり、その中に含めるものの制定はスムーズに進んだ。英国の場合、具体的には国の委員会(HSC)傘下のHSE(役所)にECの指令を出し、しかも既存のもの若干の手直して済んだ。英国はECの中でも進展していた国であった。

ここでOHS-MSについて英国での展開について述べる。

スタートは1974年の「HASWA」である。OHS-MSの考えはこの2～6条に既に導入されていた。

1989年のEC指令の後、HSEの出したものがHS(G)65/1991である。MSの骨子となるリスクを調べ確定して手を打つこと、雇用者が労働者と協議し事前にどう対応するかなど一連のことが記述されている。表にあるHS(G)65のキーワードはこれから説明する規格の中のキーワードでもある。たとえば1991年の法律の中には、5人以上雇用

している場合、安全衛生に関する方針を作ること、方針達成のための組織づくりをし、監査をしてしっかりできているかみるといったことが、既に規定されている。多くの会社はこれに準じて仕組みを構築してきた。

1992年には指令にもとづいて福利厚生まで含めた法律が出された。1989年指令はここにすべて集約された。

1994年11月、BSIと労働安全衛生局が作った国内規格BS8750が発行された。BS8750はHS(G)65とよく似ており、インプット、アウトプット、情報、コントロールとの結びつけが特徴となっている。

1996年5月、BS8800が発行された。これはBS8750を廃止した後、ガイドとして発行されたもので、その位置付けはこれに準じて審査登録するものではない。ガイドとして二つの選択を求めており、仕組みを作ろうとする組織はHS(G)65(英国国内法)、ISO14001(ISO)いずれかによるものとしている。



1996年頃から第三者機関が労働安全衛生を審査登録するための規格が幾つか出来始めた。BS8800をベースに少し調整し、1996～7年に出されたものがISA2000(SGS)である。同年、今度はDNVが自分の顧客向けにOHS-MS規格を出した。'98年10月にはBVQIが出し、ロイドはBSIに同調した。

BS8800はBSIが38機関の代表者となって作った国家規格である。一方このOHSAS18001はBSIが12機関と一

緒になり作成し、顧客の要請に基づいて一本化したものとして今年4月に発行したという位置付けである。

BSIはBS8800、OHSAS18001双方に絡んでいる。これからのステップとしては、OHSAS18001にリンクするBSIが英国の事務局であるので、ここが国家規格にしていくことが予測される。そして国家規格と同時にUKASという認証機関のベースになる規格になっていくというのが予測される次のステップであろう。



OHSASの規格は、12機関とBSIがインプットしているが、具体的な参考規格としてはBS8800のほか、先程の幾つかの規格やUNE81000(スペイン)が使われている。

正式に発行されていないがドラフト状態にあって、参考として使われたものが4例、ロイドなどのものである。

ここ2年位の間、第三者審査が労働安全で行なわれる時の規格はそれぞれ自社の規格か、BSにもとづいて行われてきた。審査に共通する一本の規格が出来たことが18001の持つ意味である。OHSAS18001は英国の国家規格ではない。これをもって審

査登録機関が民間産業界の会社を審査する基準規格である。これは9000と14000と整合性を持っているので、これらと統合した仕組みを作りたい会社には便利な構成になっている。

OHSAS18001を使ったからといって、或いは仕組みを構築したからといって法的要求事項が免責になるものではないということが最初に明確に書かれている。

内容はここにある通りであるが、1.Scopeから始まり全部で14ページにまとめられている。順を追ってポイントを説明したい。

【テクノファ発行の「仮訳」を使用して通訳を進める。】

項番	OHSAS18001	要約・要求事項の説明・ポイントなど
1	適用範囲	このOHSAS仕様に示されるすべての要求事項は、どのようなOH&Sマネジメントシステムにも取り入れられるように意図されている。例えば労働安全衛生システムを構築したいと思っている組織、それを実行し維持し継続的改善を進めたい組織に使える。また、会社の経営理念に合わせて労働安全をやっていることを明確にしたい組織、外部組織から第三者審査を受けたいと希望する組織、あるいは自己宣言を希望する組織に使える。この仕様は労働安全衛生(MS)について述べるもので、製品やサービスの安全性に言及するものではない。
2	参考出版物	参照することが望ましいもの。 OHSAS18002:1999 いまドラフト状態で、夏頃に出ると聞いている。 BS8800:1996 OHSAS18001は出たが廃止されるものではない。ガイドとしてそのまま使われるだろう。ISO9000シリーズでいうと9004になるであろう。 18001は9001、18002は9000-2「仕様の使い方」に該当するであろう。 ISOの最新版、ISO/IECガイド、BS EN、BS、HSEのいろいろなアプリケーションが最後のほうに参考文献として載っている。
3	用語と定義	17の定義がのっている。(BS8800では16であった)9つはそのままBS8800と同じ、変更1、追加7。消えた6項目は重要でないということであろう。 OHPに朱記した「利害関係者」。18001では「内部要員」「外部要員」という言葉が置き換えられたのではないか。 BS8800は参考にする書かれているので定義は生きていると考えてよいだろう。例えば「ill-health」という言葉が問題になった時は「18001」にはないがBS8800には載っているので、参考にして…というような使われ方が出来るかもしれない。
3.1	事故	8800のunplanned(思わぬ…)が18001ではundesiredに変わっている。3年の経過の中でそのような意見が出てきたのでであろう。
3.2	監査	14001と同じである。(仮訳は14001の規格協会訳を借用した。)
3.3	継続的改善	8800にはない。14001の発想であろう。マネジメントシステムの向上プロセスで「環境」を「OHS」と置き換えて定義はそのまま使える。備考も同じである。
3.4	ハザード	8800と同じ内容で定義。訳しづらい言葉である。危険源、危険状況とも。定義は潜在的害の源、または状況をいう。



3.5	ハザードの特定	潜在しているものを特定、決めつけるプロセスをいう。
3.6	事件(インシデント)	事故につながる、または起こす事象。出来事または事件と訳すか。【事故はアクシデント】 普通ではない状況で事故にはならなかったものをすべて含む。 備考は8800と同じ。「ニアミス」の訳は難。日本ではヒヤリハットという。
3.7	利害関係者	14001と同。「環境」が「OHSパフォーマンス」に置換されている。 内部要員(雇用者、下請負業者など)と外部要員(ビジター、インスペクターなど)も一緒にした。国際規格化へ向けて通りのよいものに置換したものと思う。
3.8	不適合	審査登録をしている人にはなじみの用語。 9000、14000と同定義。但し、労働安全であるので怪我、病気、物の損傷に置き換わっている。あと決められたことからの逸脱。
3.9	目的	何と訳すか難しいが、14000では目的、9000では目標と訳している。組織が狙う到達点である。
3.10	労働安全衛生	OHSの定義で非常に重要なところであると思う。その中で、どう訳すべきか、それは「well-being」である。「良い状態であれ」。仮訳で平林は「快適さ」と訳した。あるいは少し狭くなるが「福利厚生」と訳せるかもしれない。ここはポイントである。 従業員、臨時作業員、雇用要員、訪問者などその他すべての人々が快適に過ごしている状態、これの条件・コンディションとファクターを労働安全衛生という、これが定義である。
3.11	OHSマネジメントシステム	8800では単に「マネジメントシステム」であったが18001では「OHS」が付いている。BS8800とは全く変えて、9000及び14000と同じ定義をしている。その中身はOHSに関連するものに置き換わっている。 マネジメントシステムは長い文節である。組織体制、計画活動、責任、慣行、すべてを含むとなっている。ポイントはというと、環境の場合「環境側面の特定」であるのに対して、ここでは「OHSリスクをマネジメントする」というキーワードがある。あとは他と同じである。
3.12	組織	労働省令では事業所、事業者という「組織」をいう。訳文では会社、本部、事業所とか協会云々とあるが、概念が一致しない。英語原文によるとcompany, operation となっており、〇〇本部ごとき特別なものも組織という。ここではいろんなものが組織であると述べている。また備考には、組織が各地で展開している事業所のひとつを組織としてもよいと言っている。
3.13	パフォーマンス	ただ「OHSマネジメントシステムの測定可能な結果」とある。これは14001と同じで、それは「環境マネジメントシステムの測定可能な結果」とある。パフォーマンスは測定できるものの結果という定義。パフォーマンス測定という言葉があるが、活動そのものと活動の結果の両方を含むと備考に注釈が付いている。
3.14	リスク	リスクとしか訳せない。起こりやすさと起こった結果との組合せを言う。
3.15	リスクアセスメント	簡単に言えば、そうした組み合わせが許容できるかどうかを決めるプロセス。
3.16	安全性	freedom from で始まっているが、許容できないリスクからフリーである、すなわち安全であること。
3.17	許容できるリスク	このように仮訳したが、許容できるまでに低減されたもの。法的な義務、また自らが決めた規定レベルよりも低いというものを許容できるリスクと言う。 以上17項目の定義について、ご理解頂けたものと思う。



4

OH&amp;S マネジメントシステム要素

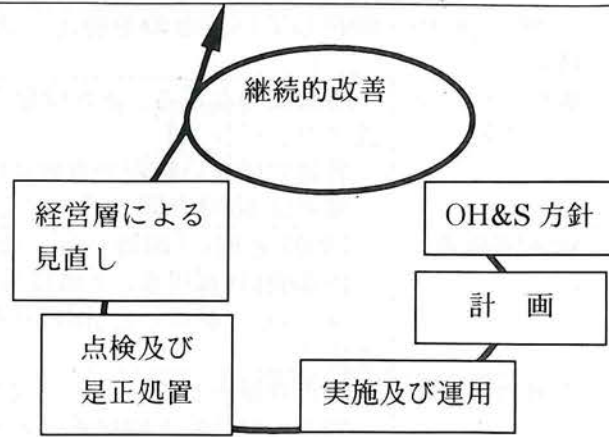


図1 - 成功するOH&amp;Sマネジメントの要素

4項全体が具体的な要求事項である。8800 と 18001 は番号付けが違うので、関心ある方は対比表を見て欲しい。(4.1、4.2 が 8800 では 4.01、4.02 となっている。)

内容について説明する。表は 18001 の全体像である。8800 は OHS Policy の前にイニシャルステータス「初回調査」があったが、18001 にはない。外した理由は多くの企業は、当然 OHS には取り組んでいるという判断だと思う。しかし、18002 には現状認識のために現状確認のガイドがあってもいいのではないかと思う。

8800 の特徴的な「ダイアグラム」が 18001 に継承されている。インプット、アウトプットが要求事項の要所、要所に入っている。

英文規格が未調達とのことなので、スクリーンで説明しよう。

8800 の 'should' が 'shall' に変わっている。4.2 の Policy では shall be となり「なければならない」要求事項になった。8800 では 29 個の should(したほうがよい)があった。18001 では 59 個の shall 要求事項がある。これを他と比較すると、9001 では 138、14001 では 52 の shall が使われている。用語の使い方も少しずつ違うことが見受けられる。

【お断り】 4.1～4.6 項の解説は「テクノファNEWS次号」に掲載致します。

## 外部契約審査員募集！



ISO 9000、ISO 14000 の審査員を募集します。

当方は、JAB 認定の審査登録機関です。

- JRCA, CEAR の主任審査員、又は審査員資格を持つ意欲的な方。  
審査員補の方でも分野によっては検討します。特に環境の方歓迎します。
- 分野：建設、金属、機械、研究開発、窯業、木製品 その他
- 地域：中部、四国、近畿等、関東以外の方特に歓迎します。

申込連絡先

〒102-0084 東京都千代田区二番町 4 番地 5 相互二番町ビル 6 F

(財)ベターリビングシステム審査登録センター 羽木/伊藤

TEL 03-5211-0608 FAX: 03-5211-0594



- 履歴書、審査実績書等ご送付下さい。書類、面接選考の上決めさせていただきます。
- 申込み期限： 1999年 7月10日